

3 市立島田市民病院の現状と課題

(1) 市立島田市民病院の現状

ア 市立島田市民病院の概要

名称	市立島田市民病院	
所在地	静岡県島田市野田1200-5	
敷地面積	45583.43㎡	
延床面積	34,999.29㎡	
病床数	536床 ※ 内訳 一般：433床、回復リハ：34床、療養：35床、結核：8床、精神：20床、感染症：6床	
建物概要	鉄筋コンクリート造 地上5階、塔屋2階建 ※ 併設施設 健診センター 鉄骨造地上3階建 救急センター 鉄骨造地上3階建	
診療科目等	診療科目	内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、腎臓内科、神経内科、糖尿病・内分泌内科、心療内科、漢方内科、緩和ケア内科、外科、呼吸器外科、脳神経外科、整形外科、形成外科、精神科、血液内科、小児科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、リハビリテーション科、放射線科、病理診断科、臨床検査科、救急科、麻酔科及び歯科口腔外科 他に院内標榜科として、総合内科、脳卒中科、輸血療法科、健康管理科
	特殊診療	人間ドック、CCU、人工透析
	受付時間	土・日曜・祝日及び12月29日～1月3日を除く毎日 午前7時30分～午前11時
	認定事項	一般病棟：7対1入院基本料 結核病棟：7対1入院基本料
学会認定	<ul style="list-style-type: none"> 日本内科学会認定医制度教育病院 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管カテーテル治療学会研修関連施設 日本呼吸器学会認定医制度認定施設 日本胸部外科認定医認定制度指定の関連施設 呼吸器外科専門医合同委員会認定修練施設 日本消化器病学会教育関連施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本消化器外科学会指定修練施設関連施設 日本消化器外科学会専門医修練施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本糖尿病学会専門医制度認定教育施設 日本血液学会専門医研修施設 日本皮膚科学会認定専門医研修施設 日本核医学会専門医教育病院 日本人間ドック学会人間ドック専門医研修施設 日本東洋医学会研修施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本外科学会外科専門医制度修練施設 日本乳癌学会認定医・専門医制度関連施設 日本大腸肛門学会関連施設 日本整形外科学会専門医制度研修施設 日本形成外科学会専門医制度教育関連施設 日本脳神経外科学会専門医認定制度研修施設 日本脳卒中学会専門医認定制度研修教育病院 日本泌尿器科学会専門医教育施設 日本周産期・新生児医学会 周産期新生児専門医暫定研修施設 日本眼科学会専門医制度研修施設 日本麻酔科学会認定麻酔指導病院 日本口腔外科学会認定医制度研修機関 日本病理学会研修登録施設 日本救急医学会救急科専門医指定病院 日本臨床細胞学会認定施設 日本臨床細胞学会教育研修施設 日本病態栄養学会認定栄養管理・NST実施施設 日本静脈経腸栄養学会・NST稼働施設 日本栄養療養推進協議会・NST稼働施設 日本静脈経腸栄養学会 ・栄養サポート専門療法士実地修練施設 認定臨床微生物検査技師制度研修施設 地域包括医療・77認定施設 	
各種指定・認定等	<ul style="list-style-type: none"> 保険医療機関 国民健康保険療養費取扱機関 労災保険指定病院 母体保護法指定医 厚生労働省臨床研修指定病院 身体障害者福祉法指定医 生活保護指定病院 結核指定医療機関 養育医療指定病院 原子爆弾被爆者一般疾病医療取扱病院 静岡県指定自立支援医療機関 救急告示病院 静岡県覚せい剤使用病院 静岡県指定地域肝疾患診療拠点病院 IXY診療拠点病院 災害拠点病院 地域医療支援病院 小児慢性特定疾患治療取扱病院 日本医療機能評価機構認定病院 人間ドック健診施設機能評価認定 優良人間ドック健診施設指定 	

※ 出典：市立島田市民病院「市立島田市民病院年報 平成24年度」

イ 市立島田市民病院の役割

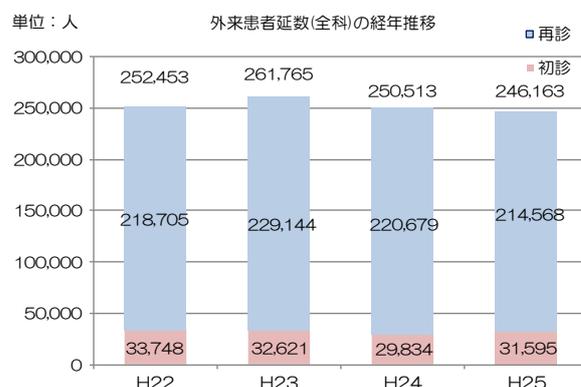
市立島田市民病院の役割は以下のとおりです。

- (ア) 大井川流域の基幹病院として、他の医療機関との適切な役割分担の下に、地域が必要とする医療を継続的かつ安定的に行う。
- (イ) 静岡県保健医療計画に定められた志太榛原医療圏域における7疾病5事業ごとの医療連携体制を踏まえ、他の医療機関との病病連携、病診連携の下に、急性期医療の体制を維持する。
- (ウ) 救急医療(小児救急医療を含む)をはじめ、感染症や結核など、公立病院でなければ担えない不採算部門の医療を行う。
- (エ) 災害拠点病院および第二種感染症指定病院として、緊急災害時や新型コロナウイルス感染流行などに対応できる医療機能を確保する。
- (オ) 地域における中核的な教育・研修機関として、若手医療人の養成と地域の医療レベルの向上に貢献する。

ウ 患者動向

(ア) 外来患者数

市立島田市民病院の外来患者延数(全科)は、平成22年度から平成23年度にかけて増加した後、平成24年度には前年度比で5%程度減少しています。これは平成22~23年度にかけて、牧之原市及び吉田町等からの患者受入れによる一時的な外来患者の増加が影響しています。



※ 出典：市立島田市民病院調べ

(イ) 入院患者数

市立島田市民病院の入院患者延数(全科)は、平成22年度から平成23年度にかけて増加した後、平成24年度には前年度比で12%程度減少しています。入院についても、平成22~23年度にかけて、牧之原市及び吉田町等からの患者受入れによる一時的な入院患者の増加が影響しています。

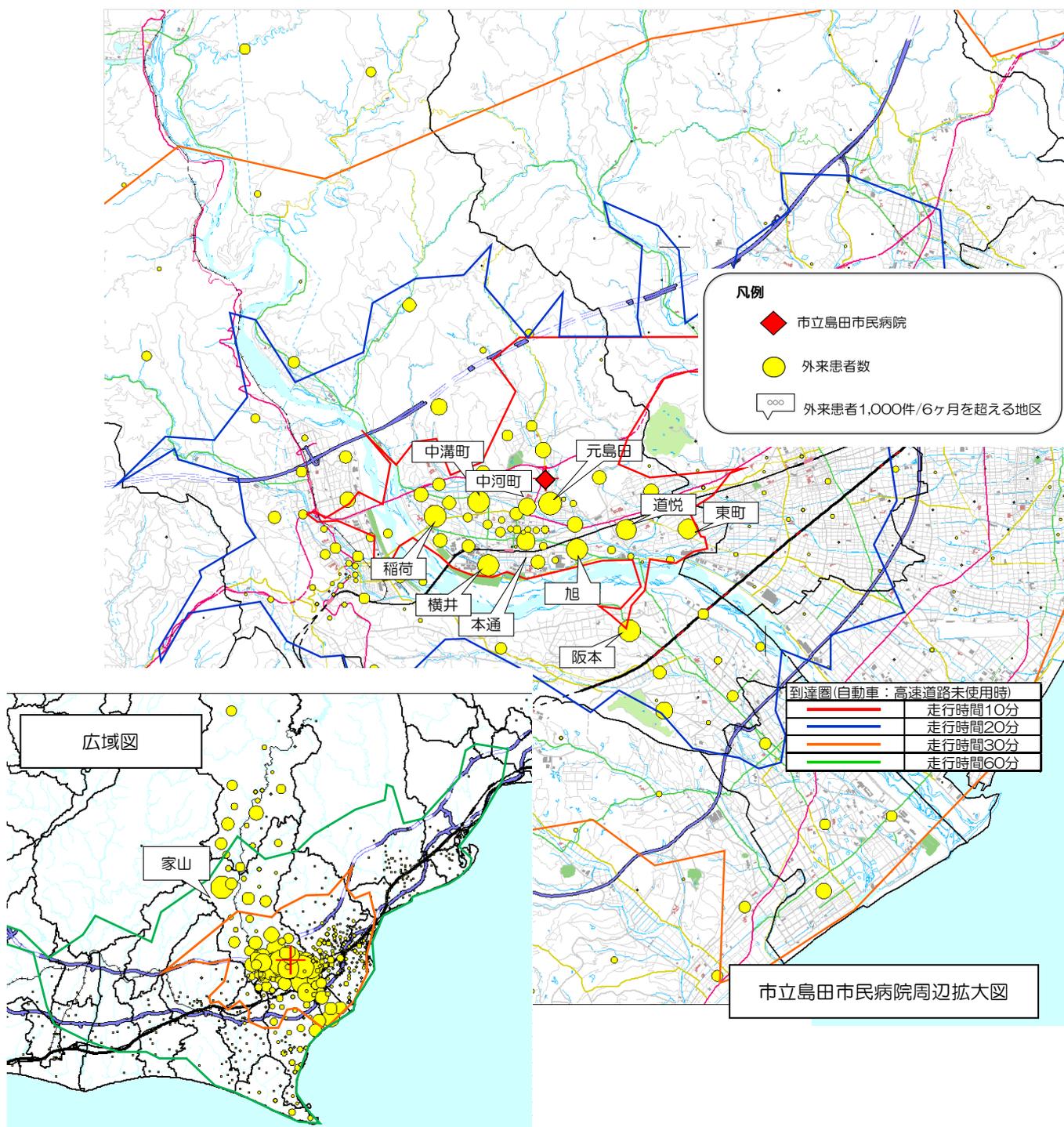


※ 出典：市立島田市民病院調べ

(ウ) 患者住所地

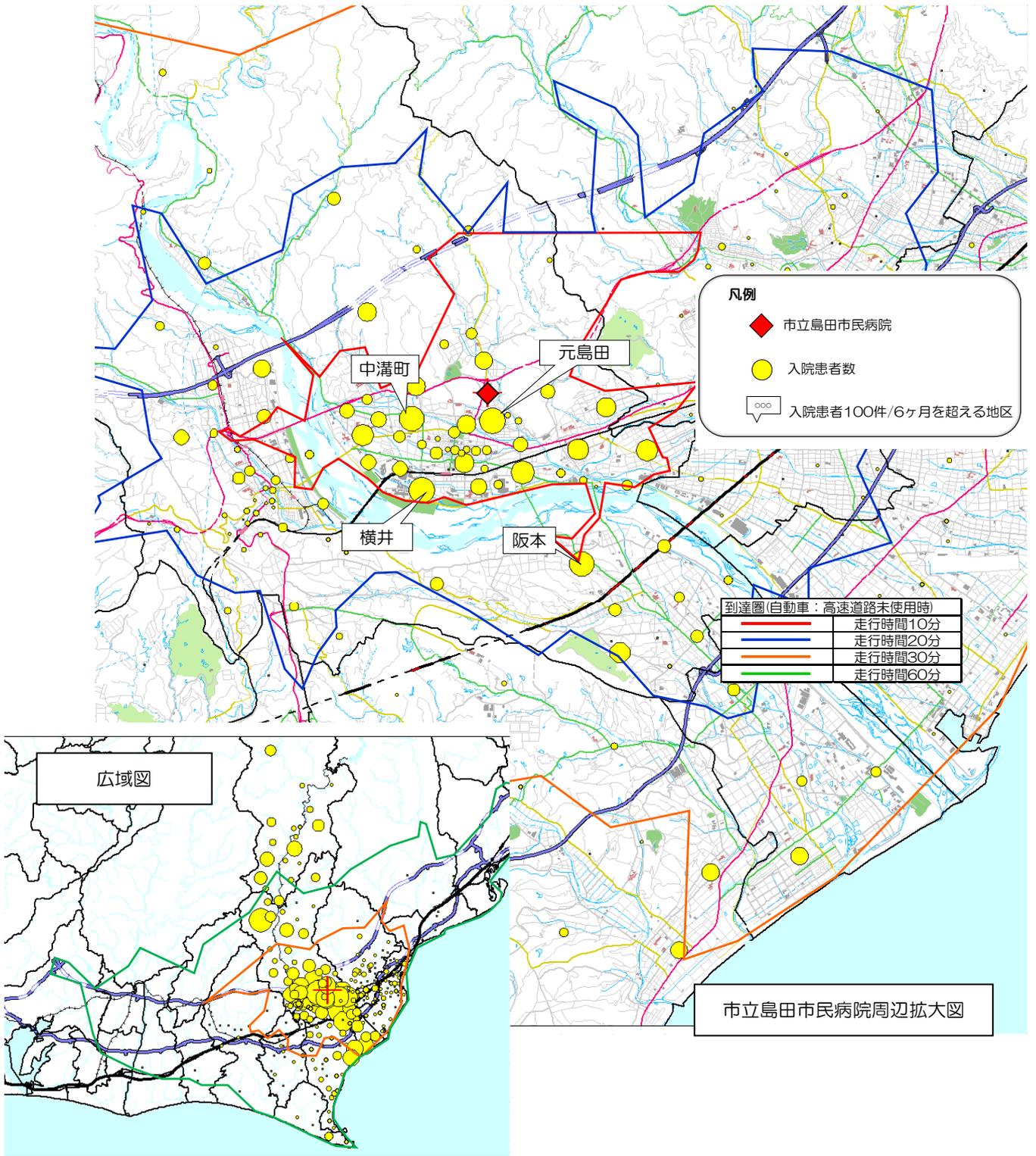
市立島田市民病院の患者住所地をみると、外来及び入院患者ともに、病院から走行時間が10分以内の地域から多くの患者が来院していることがわかります。また、市立島田市民病院からの走行時間が60分以上の地域からも来院していることがわかります。

a 外来患者



※ 出典：市立島田市民病院調べ(医事データ：平成25年4月～9月)

b 入院患者



※ 出典：市立島田市民病院調べ(医事データ：平成 25 年 4 月～9 月)

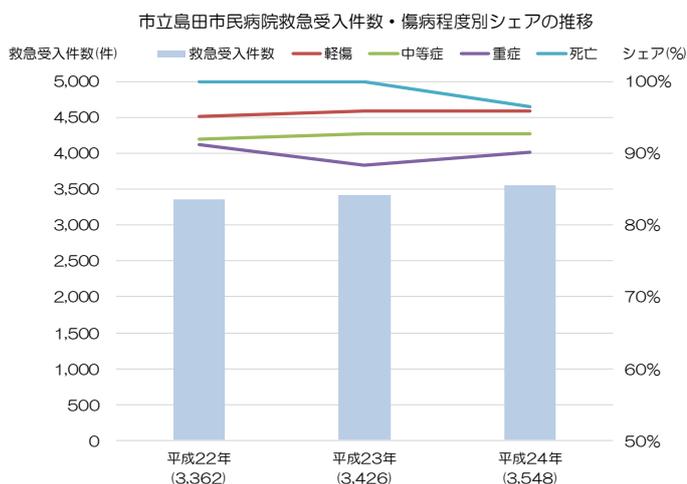
(工) 救急医療

島田市消防本部の救急統計によれば、島田市や川根本町等で発生した救急搬送件数のうち、90%以上を市立島田市民病院が受け入れています。また、市民病院の救急搬送受入件数は、年々増加しており、地域の救急医療における重要な役割を担っていることがわかります。

平成24年 救急搬送件数(全件数)の搬送先施設 単位：件

搬送先施設	軽症	中等症	重症	死亡	総計	割合
1 市立島田市民病院	1,901	1,271	349	27	3,548	94.2%
2 藤枝市立総合病院	39	26	3	0	68	1.8%
3 焼津市立総合病院	12	27	4	0	43	1.1%
4 吉田榎原病院	10	7	1	1	19	0.5%
5 静岡市立病院	0	4	13	0	17	0.5%
6 藤枝平成記念病院	2	8	1	0	11	0.3%
その他	19	27	16	0	62	1.6%
合計	1,983	1,370	387	28	3,768	100.0%

※ 出典：島田市消防本部(H24)

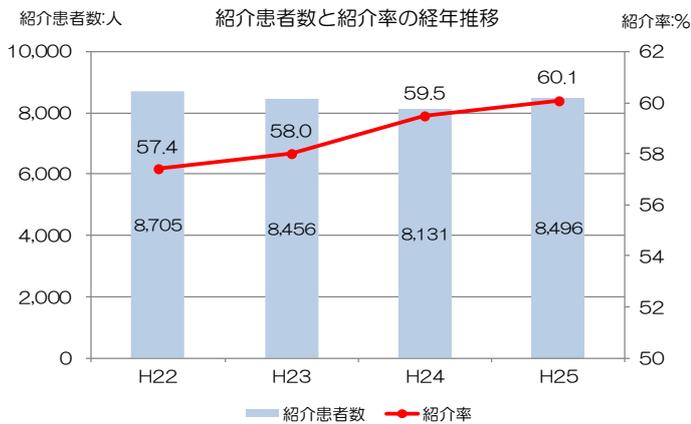


※ 出典：島田市消防本部

(オ) 地域医療支援病院としての役割

市立島田市民病院は、紹介患者に対する医療提供、医療機器等の共同利用の実施等を通じて、地域医療を担う「かかりつけ医」や「かかりつけ歯科医」等を支援する地域医療支援病院です。

島田市内の診療所等から市民病院への1施設当たり紹介件数をみると、全体平均の3.5倍以上、市民病院から他施設への逆紹介件数についても同様の傾向であり、市民病院と島田市をはじめとする他施設との連携関係が密接であることがわかります。市民病院によるバックアップ機能があるからこそ、開業医が安心して島田市内で医療提供できる環境が形成されていると言えます。

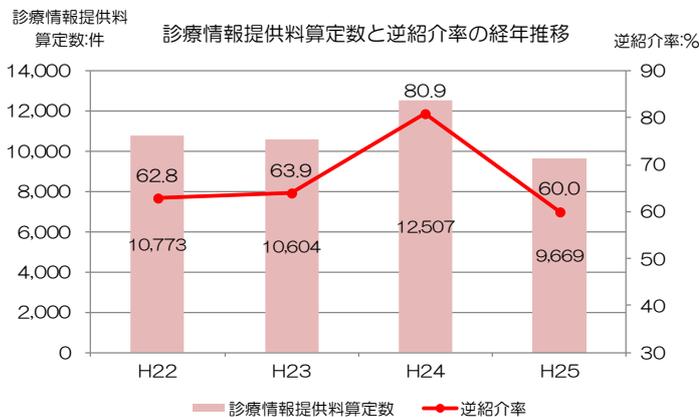


地域別の紹介施設数及び紹介件数(平成24年度) 単位:件

施設住所地	施設数	紹介件数	構成		1施設当たり紹介件数
			割合	構成	
島田市	112	7,509	62.7%		67.0
焼津市	61	327	2.7%		5.4
藤枝市	98	1,243	10.4%		12.7
牧之原市	29	599	5.0%		20.7
吉田町	20	455	3.8%		22.8
川根本町	9	462	3.9%		51.3
御前崎市	8	19	0.2%		2.4
その他	297	1,362	11.4%		4.6
合計	634	11,976	100.0%		18.9

※ 出典：市立島田市民病院調べ

※ 出典：市立島田市民病院調べ



地域別の逆紹介施設数と逆紹介件数(平成24年度) 単位:件

地域	逆紹介施設数	逆紹介件数	構成		1施設当たり逆紹介件数
			割合	構成	
島田市	105	9,577	64.5%		91.2
焼津市	67	669	4.5%		10.0
藤枝市	101	1,387	9.3%		13.7
牧之原市	38	540	3.6%		14.2
吉田町	20	520	3.5%		26.0
川根本町	8	513	3.5%		64.1
御前崎市	7	23	0.2%		3.3
その他	230	1,626	10.9%		7.1
合計	576	14,855	100.0%		25.8

※ 出典：市立島田市民病院調べ

※ 出典：市立島田市民病院調べ

(カ) 急性期入院医療における特徴

a 圏域内で急性期医療を担う公立病院

志太榛原医療圏において急性期医療を担う公立病院の病院指標は下表のとおりです。

志太榛原医療圏内の公立病院の病院指標

		市立島田市民病院	藤枝市立総合病院	焼津市立総合病院	榛原総合病院
入院	許可病床数	536床	594床	486床	450床
	1日平均入院患者数	410人	427人	403人	173人
	病床利用率(全体)	79.4%	71.8%	82.8%	38.5%
	平均在院日数(一般病床)	13.1日	14.1日	12.3日	11.5日
外来	1日平均外来患者数	1,023人	956人	1,008人	457人

※ 出典1：総務省「地方公営企業年鑑(平成24年度)」

※ 出典2：市立島田市民病院調べ

※ 市立島田市民病院については、精神病床20床を休止としているため、稼働病床数は516床である。

※ 榛原総合病院については、許可病床数に対する稼働率を記載している。

※ 榛原総合病院の稼働病床数は、一般:141床、療養:42床、合計:183床である。

※ 1日当たり平均患者数については小数点第1位を四捨五入している。

b 診断群分類別の特徴

下表は、志太榛原医療圏内のDPC対象病院における入院患者の診断群分類別の構成比率を表したものです。

これによれば、市立島田市民病院の入院患者の疾病構成としては、「消化器系疾患」「呼吸器系疾患」「循環器系疾患」による入院患者が多いことがわかります。

DPC対象病院別の診断群分類別構成比率

施設名	全国の500床以上	市立島田市民病院	藤枝市立総合病院	藤枝平成記念病院	焼津市立総合病院	榛原総合病院
病床数	500床以上	536床 (稼働：516床)	594床	199床	471床	450床 (稼働：183床)
1 神経系疾患	6.1%	4.9%	3.0%	44.2%	9.3%	2.7%
2 眼科系疾患	6.1%	5.6%	4.9%	0.0%	5.6%	0.0%
3 耳鼻咽喉科系疾患	4.9%	1.4%	5.0%	0.3%	6.3%	0.9%
4 呼吸器系疾患	10.6%	18.6%	15.3%	1.6%	10.9%	9.2%
5 循環器系疾患	10.5%	11.5%	9.4%	0.6%	1.7%	19.3%
6 消化器系疾患、肝臓・胆道・膵臓疾患	20.5%	22.7%	21.3%	22.7%	18.5%	21.5%
7 筋骨格系疾患	5.2%	2.5%	3.7%	19.6%	2.2%	3.9%
8 皮膚・皮下組織の疾患	1.8%	2.7%	2.2%	0.1%	1.7%	0.8%
9 乳房の疾患	1.5%	0.8%	1.8%	0.3%	0.8%	0.5%
10 内分泌・栄養・代謝に関する疾患	3.3%	4.8%	3.4%	1.2%	2.3%	2.2%
11 腎・尿路系疾患及び男性生殖系疾患	7.6%	9.0%	8.8%	3.8%	8.1%	11.2%
12 女性生殖系疾患及び産褥期疾患・異常妊娠分娩	8.2%	1.3%	4.7%	0.0%	14.2%	10.4%
13 血液・造血器・免疫臓器の疾患	2.8%	2.9%	1.2%	0.5%	1.2%	1.3%
14 新生児疾患、先天性奇形	2.8%	0.7%	3.1%	0.5%	3.8%	1.3%
15 小児疾患	1.3%	2.5%	2.5%	0.5%	2.5%	0.8%
16 外傷・熱傷・中毒	4.9%	6.6%	8.0%	3.0%	8.7%	12.3%
17 精神疾患	0.1%	0.1%	0.1%	0.0%	0.2%	0.1%
18 その他	1.7%	1.3%	1.5%	0.8%	2.2%	1.9%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
全体	-	8,381	10,116	2,373	9,526	2,875

院内シェア1位 院内シェア2位 院内シェア3位

※ 出典：厚生労働省DPC評価分科会(平成24年度)

※ 「全国の500床以上」は平成24年度(12ヶ月)の全国500床以上のDPC対象病院の平均値

また、志太榛原医療圏内のDPC対象病院における入院患者数を他施設と比較すると、市立島田市立病院は、「呼吸器系疾患」「循環器系疾患」「皮膚・皮下組織の疾患」「内分泌・栄養・代謝に関する疾患」「血液・造血器・免疫臓器の疾患」で、最も多いことがわかります。

DPC対象病院別の診断群分類別取扱い件数及びシェア

施設名		市立島田市民病院	藤枝市立総合病院	藤枝平成記念病院	焼津市立総合病院	榛原総合病院	合計
1 神経系疾患	件数	410	299	1,050	885	77	2,721
	シェア	15.1%	11.0%	38.6%	32.5%	2.8%	100.0%
2 眼科系疾患	件数	472	495	0	537	0	1,504
	シェア	31.4%	32.9%	0.0%	35.7%	0.0%	100.0%
3 耳鼻咽喉科系疾患	件数	115	508	7	599	25	1,254
	シェア	9.2%	40.5%	0.6%	47.8%	2.0%	100.0%
4 呼吸器系疾患	件数	1,559	1,551	38	1,034	265	4,447
	シェア	35.1%	34.9%	0.9%	23.3%	6.0%	100.0%
5 循環器系疾患	件数	966	955	15	159	554	2,649
	シェア	36.5%	36.1%	0.6%	6.0%	20.9%	100.0%
6 消化器系疾患、肝臓・胆道・膵臓疾患	件数	1,900	2,156	538	1,762	617	6,973
	シェア	27.2%	30.9%	7.7%	25.3%	8.8%	100.0%
7 筋骨格系疾患	件数	212	373	466	205	111	1,367
	シェア	15.5%	27.3%	34.1%	15.0%	8.1%	100.0%
8 皮膚・皮下組織の疾患	件数	230	224	3	159	22	638
	シェア	36.1%	35.1%	0.5%	24.9%	3.4%	100.0%
9 乳房の疾患	件数	71	186	8	72	13	350
	シェア	20.3%	53.1%	2.3%	20.6%	3.7%	100.0%
10 内分泌・栄養・代謝に関する疾患	件数	402	341	28	216	62	1,049
	シェア	38.3%	32.5%	2.7%	20.6%	5.9%	100.0%
11 腎・尿路系疾患及び男性生殖系疾患	件数	754	892	89	775	322	2,832
	シェア	26.6%	31.5%	3.1%	27.4%	11.4%	100.0%
12 女性生殖系疾患及び産褥期疾患・異常妊娠分娩	件数	111	472	0	1,352	299	2,234
	シェア	5.0%	21.1%	0.0%	60.5%	13.4%	100.0%
13 血液・造血器・免疫臓器の疾患	件数	246	124	13	110	38	531
	シェア	46.3%	23.4%	2.4%	20.7%	7.2%	100.0%
14 新生児疾患、先天性奇形	件数	56	315	13	365	36	785
	シェア	7.1%	40.1%	1.7%	46.5%	4.6%	100.0%
15 小児疾患	件数	210	248	13	242	22	735
	シェア	28.6%	33.7%	1.8%	32.9%	3.0%	100.0%
16 外傷・熱傷・中毒	件数	553	811	71	826	354	2,615
	シェア	21.1%	31.0%	2.7%	31.6%	13.5%	100.0%
17 精神疾患	件数	9	14	1	16	3	43
	シェア	20.9%	32.6%	2.3%	37.2%	7.0%	100.0%
18 その他	件数	105	152	20	212	55	544
	シェア	19.3%	27.9%	3.7%	39.0%	10.1%	100.0%
総計	件数	8,381	10,116	2,373	9,526	2,875	33,271
	シェア	25.2%	30.4%	7.1%	28.6%	8.6%	100.0%

※ 出典：厚生労働省DPC評価分科会(平成24年度)

DPC対象病院群の中で市立島田市民病院のシェアが最も高い疾患

エ 有識者合同ヒアリング

(ア) 有識者合同ヒアリングの概要

目的	有識者による専門的な見地からの意見を求め、「新市立島田市民病院建設基本構想」策定のための基礎資料とする。
実施主体	島田市
実施日	【第1回】平成26年4月3日 【第2回】平成26年4月24日
出席者	医療関係団体(7団体)、医療関係有識者(4名)
ヒアリング テーマ	【第1回】島田市民病院の役割、機能及び規模について 【第2回】新市立島田市民病院の機能及び規模について、建設候補地について

※ 出典：島田市

(イ) 有識者合同ヒアリングにおける主な意見

a 市民病院の役割、機能に対する主な意見

市立島田市民病院は島田市で唯一の病院ですが、島田市のみではなく、牧之原市や吉田町等を含めた志太榛原医療圏全域からの患者にも対応している現状を踏まえた機能検討が必要であることや、市立島田市民病院の診療機能を明確にした上で藤枝市立総合病院や焼津市立総合病院等と連携しながら、今後も、地域医療の中核を担う急性期病院として、市民の命と健康を守る役割を担ってほしいとの意見が挙げられました。

また、島田市内では、療養病床や回復期リハビリテーション病床が不足していますが、こうした急性期を脱した患者の受け皿や在宅医療提供体制の整備については、市民病院単独ではなく、島田市や志太榛原医療圏としての検討が必要であるとの意見も挙げられました。

b 病院規模に対する主な意見

市立島田市民病院の診療圏の考え方や現状機能の維持を考慮すると500床程度の病床規模が必要であるとの意見が挙げられました。また、医療行政の動向も踏まえ、急性期機能と慢性期機能を分離して整備してはどうかとの意見も挙げられました。

c 建設地に対する主な意見

建設地を選定するにあっては、土地を確保できることが大事であり、その上で、目指す医療機能・水準を考慮して、建設地を検討する必要があるとの意見が挙げられました。また、交通アクセス等の患者にとっての利便性、災害拠点病院としての機能性、事業継続性などの観点で検討が必要であるとの意見も挙げられました。

オ 市立島田市民病院の患者からのご意見・ご希望

(ア) 外来アンケート

目的	市民病院への患者の要望や評価を把握し、今後の病院経営の参考資料とする。
実施主体	市立島田市民病院
期間	平成 25 年 11 月 18 日・19 日
対象	平成 25 年 11 月 18 日・19 日に外来受診した患者
有効回答	625 件(白紙回答 8 件)

※ 出典：市立島田市民病院調べ

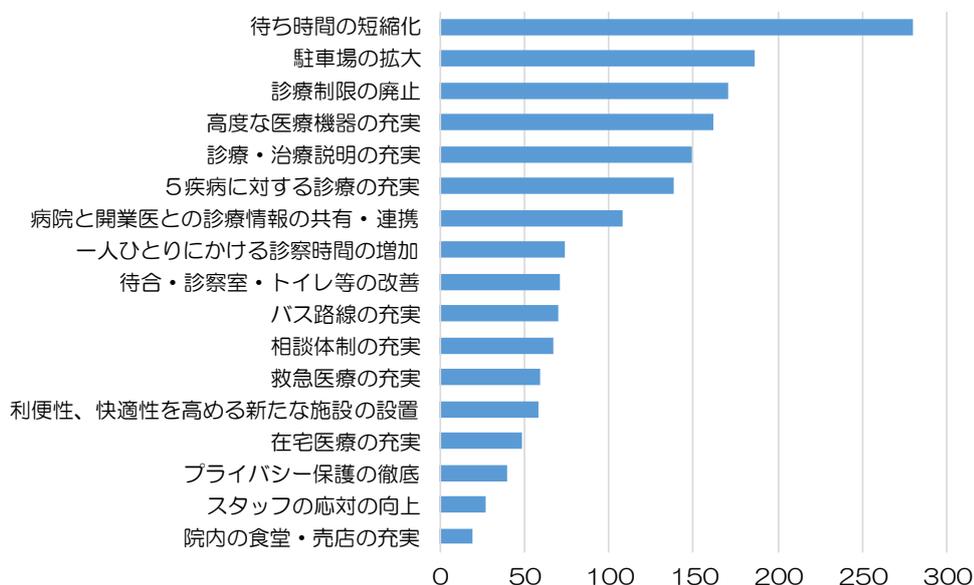
a 市民病院へのご意見・ご希望に関する回答

市立島田市民病院に望むことの上位 3 件は、以下のとおりでした。

1. 待ち時間の短縮化
2. 駐車場の拡大
3. 診療制限(紹介状なしでの外来受診の制限)の廃止

自由記述による当院へのご意見、ご希望については 123 件が寄せられ、うち当院へのご要望が 64%(78 件)、感謝のご意見が 10%(12 件)、新病院建設に関するご意見が 11%(14 件)、その他のご意見が 15%(19 件)でした。

当院へのご意見、ご希望（自由意見）

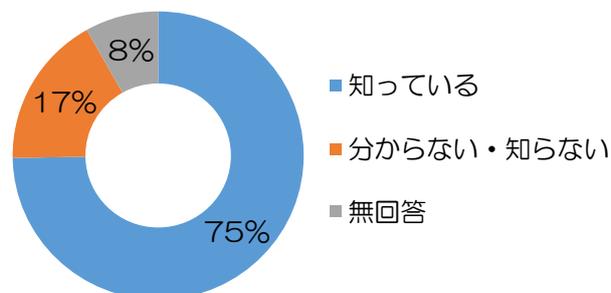


※ 上記のうち、3つ以内で選択

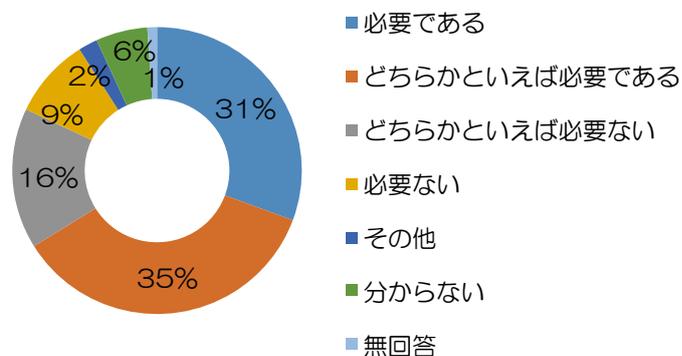
b 新病院建設に関する回答

新病院の建設については、75%の方が検討を行っていることを「知っている」と回答し、新病院建設の必要性については、66%の方が「必要である(どちらかといえば必要である)」と回答しています。また、建設場所については、「現在の場所」が53%で最多で、次いで「郊外」が19%でした。

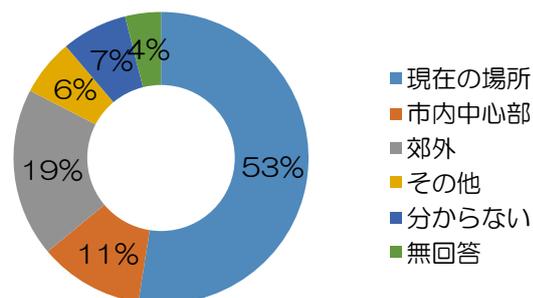
島田市では新病院建設の検討を行っていることを知っていますか？



新病院を建設することの必要性についてどう思いますか？
(回答数：467件)



新病院の建設場所は、どこが適当だと思いますか？
(回答数：309件)



(イ) 入院アンケート

目的	市民病院への患者の要望や評価を把握し、今後の病院経営の参考資料とする。
実施主体	市立島田市民病院
期間	平成 25 年 11 月 25 日～12 月 2 日
対象	平成 25 年 11 月 25 日に当院に入院している患者
有効回答	232 件(白紙回答 2 件)

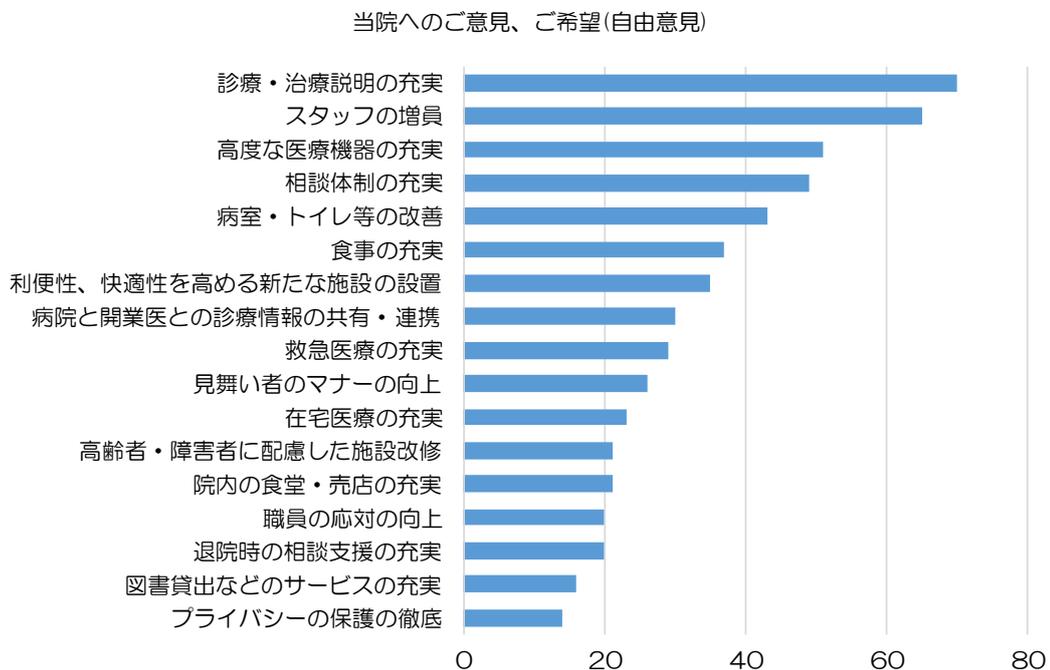
※ 出典：市立島田市民病院調べ

a 市民病院へのご意見・ご希望に関する回答

市立島田市民病院に望むことの上位 3 件は、以下のとおりでした。

1. 診療・治療説明の充実
2. スタッフの増員
3. 高度な医療機器の充実

自由記述による当院へのご意見、ご希望については 47 件が寄せられ、うち感謝のご意見が 32%(15 件)、サービスに関するご要望が 30%(14 件)、施設・設備に関するご要望が 38%(18 件)でした。

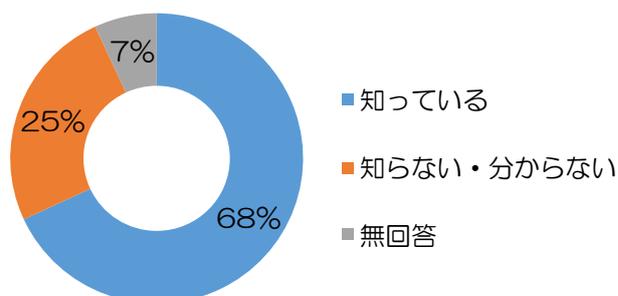


※ 上記のうち、3つ以内で選択

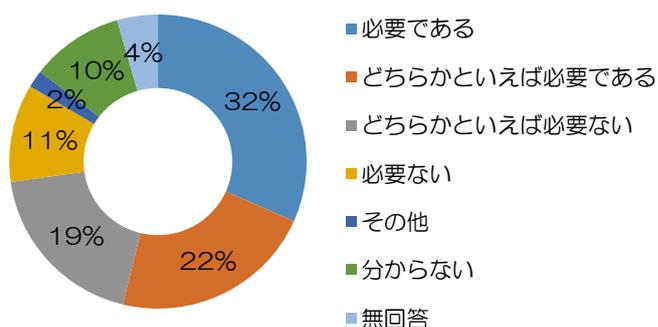
b 新病院建設に関する回答

新病院の建設については、68%の方が検討を行っていることを「知っている」と回答し、新病院建設の必要性については、54%の方が「必要である(どちらかといえば必要である)」と回答しています。建設場所については、「現在の場所」が41%で最多で、次いで「郊外」が22%でした。

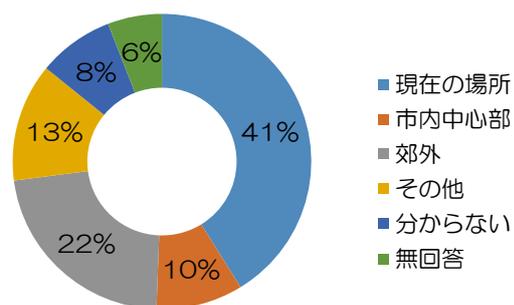
島田市では新病院建設の検討を行っていることを知っていますか？



新病院を建設することの必要性についてどう思いますか？
(回答数：158 件)



新病院の建設場所は、どこが適当だと思いますか？
(回答数：85 件)



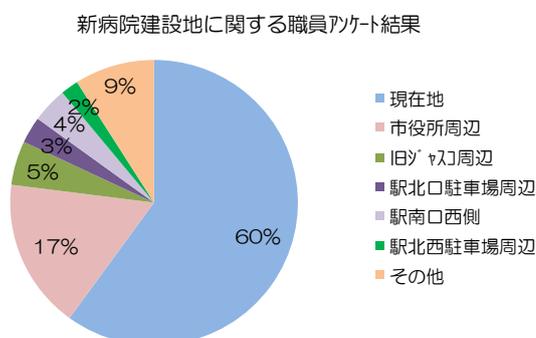
カ 病院職員アンケート

目的	「まちなか集積医療基本構想」の策定にあたり、建設地の意向を把握する。
実施主体	市立島田市民病院
期間	平成24年6月21日～8月3日
対象	病院職員
有効回答	669件(「新病院を建設するのに最もふさわしいと思う場所を選んでください」の問いに対する有効回答数)

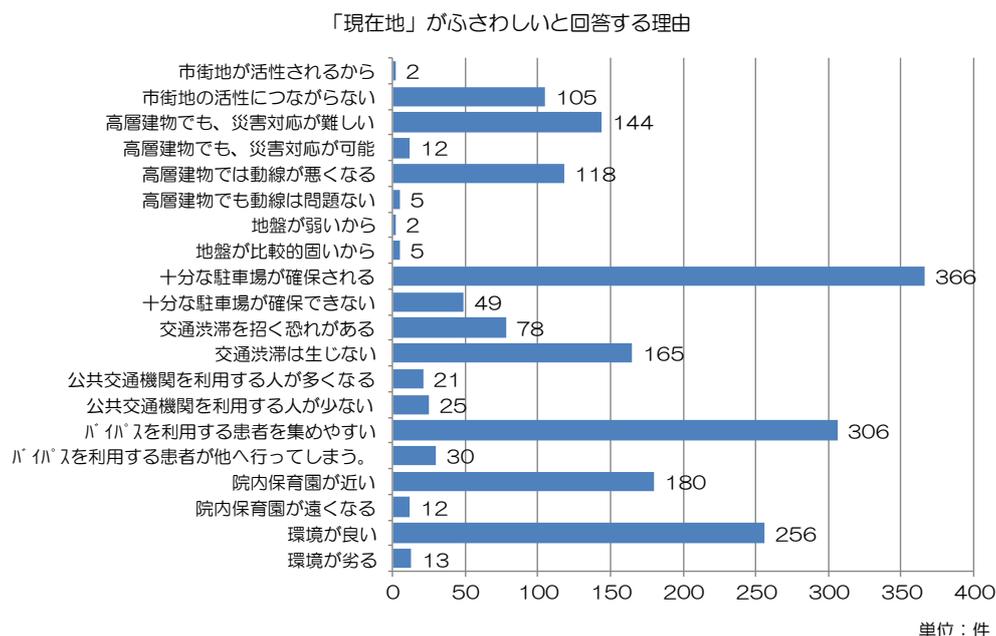
※ 出典：市立島田市民病院調べ

市立島田市民病院の職員を対象とした新病院建設地に関するアンケートでは、669件の回答が寄せられ、職員の60%が新病院建設地として現在地が最もふさわしいと回答し、続いて17%の職員が市役所周辺と回答しています。

新病院を建設するのに最もふさわしいと思う場所を選んでください。



また、現在地がふさわしいと回答した理由として、「十分な駐車場が確保される」「バイパスを利用する患者を集めやすい」「環境が良い」が主な理由として挙げられています。



キ 市民の思い

(ア) 「島田市総合計画後期基本計画」策定にかかる調査

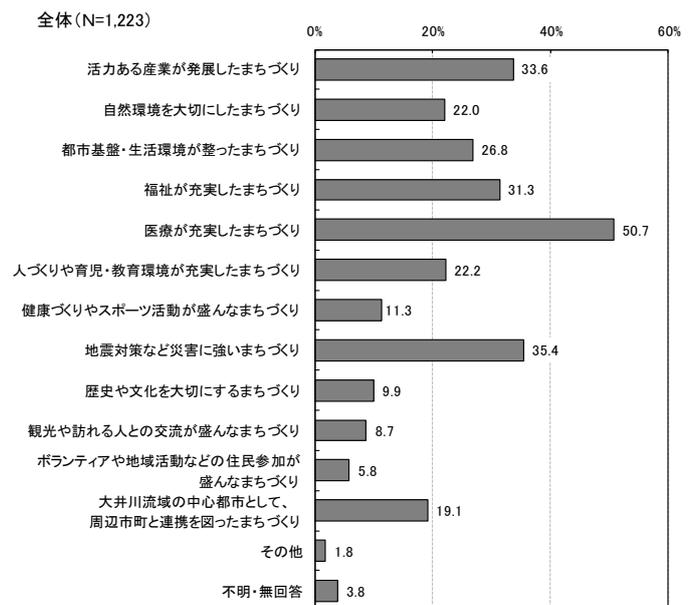
a 住民アンケートによる調査

目的	「島田市総合計画後期基本計画」を策定するための基礎資料とする。
実施主体	島田市
期間	平成 25 年 7 月 1 日～7 月 15 日
対象	一般市民(20 歳以上)：3,000 人(住民基本台帳より無作為抽出)
有効回答	1,233 件

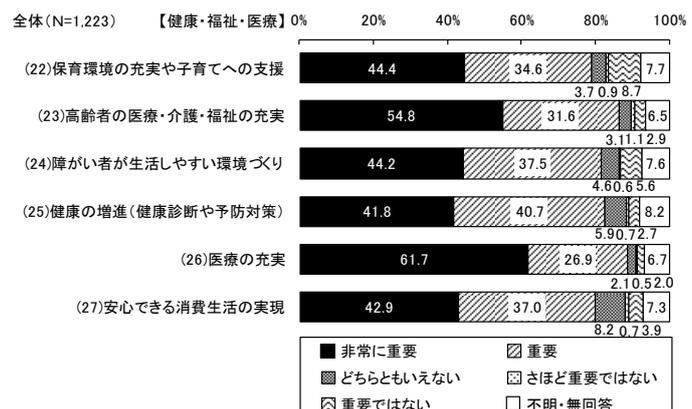
※ 出典：島田市

島田市総合計画後期基本計画策定にかかる住民アンケート調査の結果では、「市はどのような都市をめざしたら良いか」の問いに対して、「医療が充実したまちづくり」が有効回答のうち 50.7%と最も多い結果でした。また、「市の取り組みに対する重要度は」の問いに対して、「医療の充実」が最も多いことから、医療の充実を求める意識が最も高いものとなっています。

島田市は今後どのような都市を目指したら良いと思いますか。
(複数回答)



島田市の【健康・福祉・医療】における取り組みに対する「重要度」について。



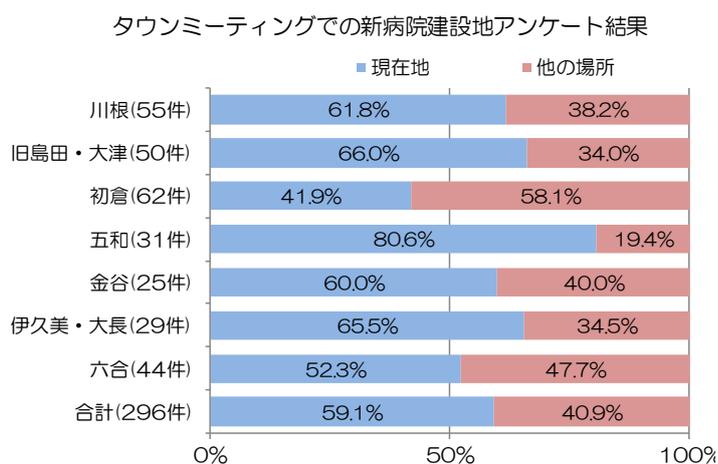
b タウンミーティングにおける意見カードによる調査

目的	「島田市総合計画後期基本計画」を策定するための基礎資料とする。
実施主体	島田市
実施日	川根地区：平成 25 年 9 月 18 日、旧島田・大津地区：平成 25 年 9 月 30 日 初倉地区：平成 25 年 10 月 2 日、五和地区：平成 25 年 10 月 4 日 金谷地区：平成 25 年 10 月 7 日、伊久美・大長地区：平成 25 年 10 月 9 日 六合地区：平成 25 年 10 月 16 日
対象	「島田市総合計画後期基本計画」策定にかかるタウンミーティング参加者
有効回答	296 件(「病院を建替える場合、どこが良いと思いますか」の問いに対する有効回答数)

※ 出典：島田市

「病院を建替える場合、どこが良いと思いますか」の問いに対する地区別の回答結果は下図のとおりです。

アンケート結果では地区ごとにみると、「現在地」を上回って、「他の場所」を回答している地区はあるが、全地区でみると、約 6 割が新病院建設地について「現在地」と回答しています。



また、「他の場所」と回答された方が、新病院建設地として良いと考える主な場所は以下のとおりでした。

金谷中学校跡地	島田球場周辺
新東名島田金谷インターチェンジ周辺	ばらの丘公園周辺
特種東海製紙(株)横井工場	牧之原台地周辺
市民病院西側の山	権現荘跡地周辺
富士山に見える高台	お茶の郷周辺

(イ) 「新しい島田市民病院への思いやご意見をお聴かせください」 募集結果の概要

目的	「新市立島田市民病院建設基本構想」策定のための基礎資料とする。
実施主体	島田市
実施日	平成 26 年 1 月 20 日(月)~2 月 19 日(水)
意見収集方法	E メールまたは持参
提出意見数	33 件(提出者数：9 名) ※広報しまだ及び市ホームページで募集

※ 出典：島田市

意見の中で最も多かったのは、建設場所についてのご意見です。現在地以外に交通アクセスが容易である場所や防災拠点としてふさわしい場所、高齢者による利用を考慮した場所等、建設地に求める要件についての意見が多数挙げられました。

2 番目に多かったのが、新病院建設計画の検討方法に関するご意見です。事業費を考慮しつつ、専門家の意見を基に、十分な市民の理解と協力を得ながら検討を進める必要があるとの意見が挙げられました。

また、診療内容に関する意見としては、患者への説明や患者の立場にたった医療の提供を求めるといった患者満足に関連するご意見や他施設との連携も考慮した情報システム構築についてのご意見も多く挙げられました。



(ウ) 新市立島田市民病院建設基本構想のための意見交換会

目的	「新市立島田市民病院建設基本構想」策定のための基礎資料とする。
実施主体	島田市
実施日	平成 26 年 4 月 16 日(水)
場所	島田市役所 4 階 第三委員会室南
対象	島田市地域医療を支援する会会員 10 名

※ 出典：島田市

島田市地域医療を支援する会の会員の方々との意見交換では、医師をはじめとする医療従事者の確保が厳しい状況であるとの認識を踏まえ、新病院では医療従事者が市立島田市民病院で勤務したいと思えるような勤務環境や指導体制を整備してほしいとの意見が挙げられました。

医療機能や建設地については、新病院の位置づけを考えるとともに、中心部だけでなく川根などの周辺地域を考慮した計画として欲しいということや防災拠点としての病院の立地を考えたほうが良いという意見が挙げられました。

また、高齢化の進展により自家用車での通院が難しくなることを踏まえた公共交通の確保や市立島田市民病院退院後も含めた医療と介護全体を見た環境の整備をしっかりとしてほしいという意見が挙げられました。

(工) 新市立島田市民病院建設基本構想のための市民ワークショップ

目的	「新市立島田市民病院建設基本構想」策定のための基礎資料とする。
実施主体	島田市
実施日	平成 26 年 4 月 19 日(土)
場所	島田市役所会議棟 大会議室
対象	公募による島田市内在住者 7 名

※ 出典：島田市

a 市民が求める病院機能に対する主な意見

新病院においても、二次救急医療、災害拠点病院、地域医療支援病院、政策医療(小児・感染等)、悪性新生物への対応、呼吸器系疾患(肺がんや肺炎)といった現在の機能や役割を維持してほしいという意見が挙げられました。また、医師確保が困難である状況についても言及があり、圏域内の他の公立病院との役割分担や医師が集まる病院を目指してほしいとの意見もありました。

新病院で充実してほしい機能としては、災害拠点病院としての機能や患者相談機能の充実、障害者に配慮した施設整備が挙げられました。

b 病院規模に対する主な意見

病床規模を設定する上で、静岡県の医療計画や地域医療提供のあり方、30 年後の人口(高齢者人口)、近隣病院との機能連携、事業費、医療従事者の確保可能性を考慮して設定してほしいという意見が挙げられました。

c 建設地に対する主な意見

高齢者や障害者による利用を考慮し、広い駐車場が確保できることや交通利便性から建設地を選定してほしいとの意見が挙げられました。また、災害拠点病院として、災害時においても病院機能が維持できる場所であることも建設地の要件であるとの意見も挙げられました。

(2) 市立島田市民病院の課題

ア 病院建物の耐震性・施設設備の老朽化

現在の病院本館の耐震性については、静岡県が国の方針を受け、災害時の拠点となる学校、病院、庁舎等の公共建築物について耐震性能を判定するために、独自に策定した東海地震に対する公共建築物の耐震性能判定基準では「耐震性能がやや劣る建物」、「倒壊する危険性は低いが、かなりの被害を受けることも想定される」建物として判定されています。また、現病院が昭和54年に現在地へ新築移転してから約35年が経過しており、施設設備の老朽化も進行しています。

島田市総合計画後期計画策定に係る住民アンケート調査結果では、「医療が充実したまちづくり」に対して市民の期待が高いことや今後の医療環境の変化に十分に対応するためには、施設の維持管理が困難になる前に新病院建設計画を進める必要があります。

イ 急性期病院としての市民病院の課題

医療行政の動向としては、地域における中核的な位置づけの病院についても、急性期から慢性期まで幅広い分野の医療を提供するのではなく、急性期または慢性期のどちらかに特化したかたちでの機能再編が求められており、市立島田市民病院は、島田市における唯一の急性期病院であることから、急性期病院として急性期に特化したほうが良いと考えられます。しかしながら、島田市内に急性期を脱した患者の受け皿が不足しているため、現在は市民病院に回復期リハビリテーション病床や療養病床を設け、退院調整機能として運営しています。これらの慢性期病床の扱いについては、市民病院単独ではなく、島田市あるいは志太榛原医療圏全体の課題として検討していく必要があります。

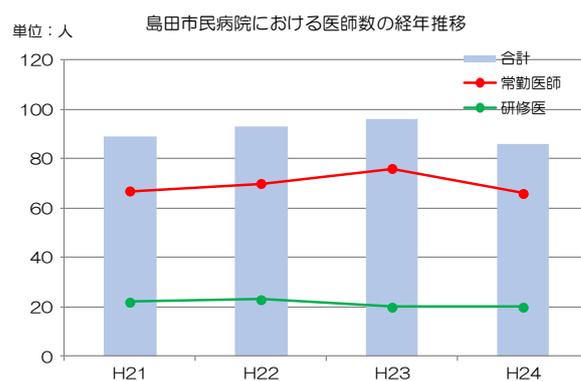
ウ 医療従事者の確保

(ア) 医師確保の現状

市立島田市民病院においても、全国の公立病院と同様に、医師招聘は厳しい状況にあります。現在の産婦人科の常勤医師数は1名であり、年間にして分娩件数が200件未満の状況にあります。また、精神科の常勤医師の招聘も困難な状況であり、入院機能を休止している状況です。平成24年度には眼科や呼吸器内科医師の減少により、入院機能が一時的に低下しています。

新病院の機能を検討するにあっては、こうした医師確保の現状も踏まえる必要があります。

また、市立島田市民病院は、厚生労働省臨床研修指定を受けています。急性期医療の実践や高度医療設備等を活用する臨床現場において研修機会を設ける等、積極的に研修

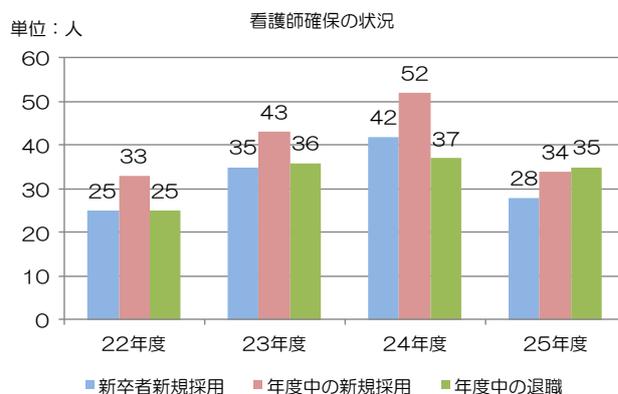


※ 出典：市立島田市民病院調べ

医の確保に努めています。このため、新病院では、地域医療を担う人材確保・育成のために、研修・教育機能(特に設備面)をさらに充実させる必要があります。

(イ) 看護師確保の現状

市立島田市民病院の看護師についても、7対1看護基準維持のため、年度途中の採用も行いながら、看護師確保に努めていますが、一方で結婚や出産を理由とする離職者もあるため、人員に余裕がないのが現状です。このため、職場環境の改善や離職者の職場復帰も考慮した教育研修体制を充実させることにより、今後も看護師確保に努める必要があります。



※ 出典：市立島田市民病院調べ

エ 医療圏内の連携推進

志太榛原医療圏域内には、市立島田市民病院を含め、400床を超える3つの急性期の市立病院(市立島田市民病院、藤枝市立総合病院、焼津市立総合病院)が、市立島田市民病院から10km圏内にあります。

静岡県は、志太榛原医療圏における医師不足、榛原総合病院の機能縮小による地域医療体制の見直し、初期救急体制の再整備等の課題に対処するため、静岡県地域医療再生計画(平成22年度～平成25年度)を策定し、これに基づき、県全体で医師確保への取り組みを進めるほか、圏域内の公立病院の医療連携強化、志太・榛原地域救急医療センターの診療体制再整備等を推進しています。

この計画の中で、市立島田市民病院は、藤枝市立総合病院、焼津市立総合病院とともに志太榛原医療圏における急性期・二次救急を担う病院として位置づけられており、人的資源も含めた医療資源の効率的な活用を踏まえ、これら公立病院間の機能分担及び連携体制の整備・強化を今後も一層推進していく必要があります。さらに、こうした公立病院間での機能連携を中心として、民間病院や診療所等との連携強化も必要です。

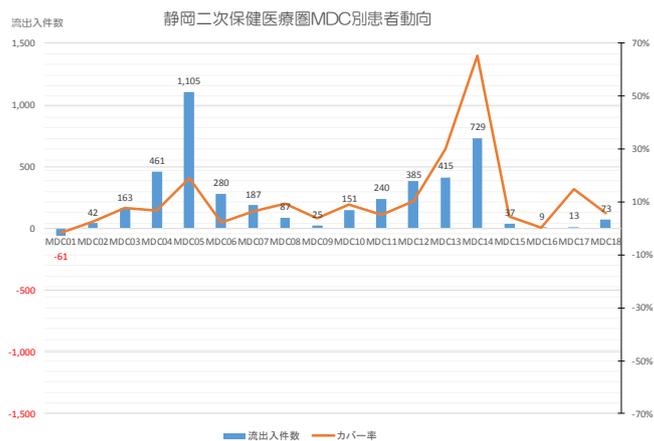
実際に、市立島田市民病院には、島田市以外に川根本町や焼津市、藤枝市、牧之原市、吉田町からも患者が来院していることから、行政区という枠組みを超えて、他の公立病院と連携しながら、志太榛原医療圏内の医療需要に対応していくことが望まれます。

才 他の医療圏への流出傾向

志太榛原医療圏における急性期患者の動向を診断群分類別にみると、急性期患者については、「消化器系疾患等」を中心に志太榛原医療圏域外への流出傾向があることがわかります。下図によれば、急性期患者の流出先は静岡医療圏や西部医療圏と考えられます。こうした流出傾向のある診断群分類に関する対応については、現状どおり圏域外の医療機関と広域連携しながら対応するのか、ニーズを考慮して、市立島田市民病院あるいは圏域内の他医療機関と連携しながら重点的に強化すべきものとして位置付けるのか検討が必要です。



※ 出典：厚生労働省DPC評価分科会(平成24年度)



※ 出典：厚生労働省DPC評価分科会(平成24年度)



※ 出典：厚生労働省DPC評価分科会(平成24年度)



※ 出典：厚生労働省DPC評価分科会(平成24年度)

※ MDCコードと診断群分類

MDC01	神経系疾患	MDC10	内分泌・栄養・代謝に関する疾患
MDC02	眼科系疾患	MDC11	腎・尿路系疾患及び男性生殖器系疾患
MDC03	耳鼻咽喉科系疾患	MDC12	女性生殖器系疾患及び産褥期疾患・異常妊娠分娩
MDC04	呼吸器系疾患	MDC13	血液・造血器・免疫臓器の疾患
MDC05	循環器系疾患	MDC14	新生児疾患、先天性奇形
MDC06	消化器系疾患、肝臓・胆道・膵臓疾患	MDC15	小児疾患
MDC07	筋骨格系疾患	MDC16	外傷・熱傷・中毒
MDC08	皮膚・皮下組織の疾患	MDC17	精神疾患
MDC09	乳房の疾患	MDC18	その他

カ 災害拠点病院としての機能

市立島田市民病院は、静岡県から災害拠点病院の指定を受けており、また、島田市地域防災計画では救護病院として位置づけられています。現在は、静岡県の第4次地震被害想定に対応するよう医療体制の整備を行っております。

東日本大震災以後、大規模災害時の医療のあり方が見直されつつあり、国は平成23年10月、災害医療等のあり方に関する検討会報告書を発表し、病院機能を有する施設の耐震化、DMA Tの保有や敷地内ヘリポートの必要性等を示しました。

また、市立島田市民病院は、浜岡原子力発電所から約30キロ圏内に位置しており、「静岡県地域防災計画 原子力災害対策の巻」において、平成25年6月に初期被ばく医療機関として位置づけられました。

こうした状況を踏まえ、静岡県及び島田市が策定する地域防災計画との連携をとりながら、災害拠点病院としての役割を果たすため、必要な準備を整えていく必要があります。

特に新病院機能としては、敷地内ヘリポートの設置や被災者用収容スペースの確保が求められます。

キ 十分な駐車場スペースの確保

現病院では、患者及び職員用として、およそ900台分の駐車場が数か所に分散整備されていますが、混雑してしまう状況があります。このため、新病院建設計画では、十分な駐車台数を確保するとともに、高齢者や障害者にとっての利便性に配慮した駐車場を整備する必要があります。